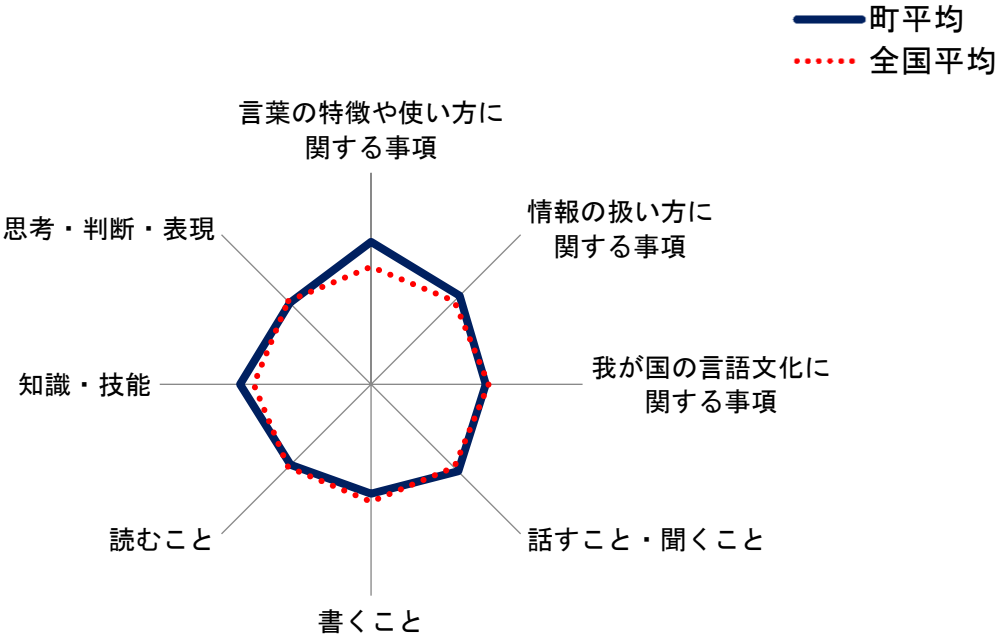
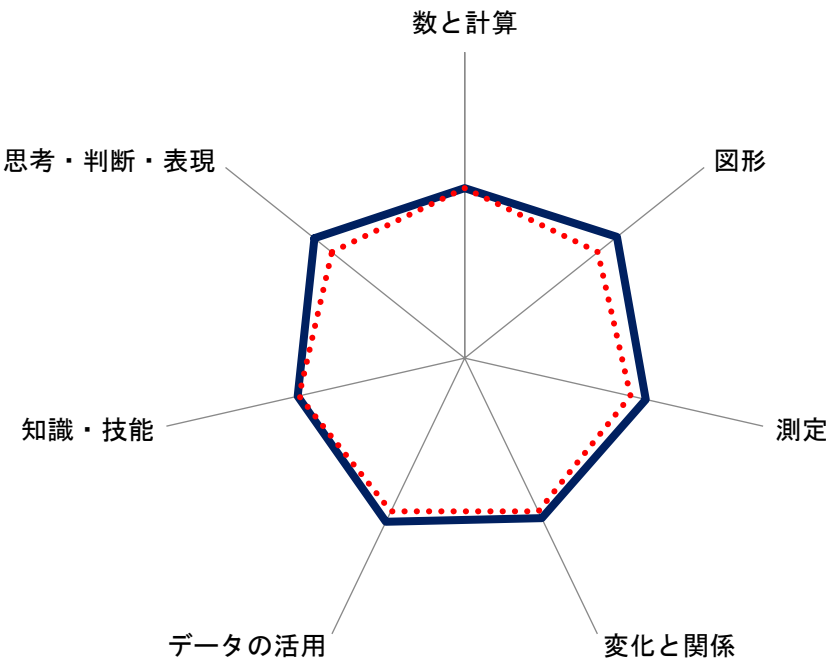


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

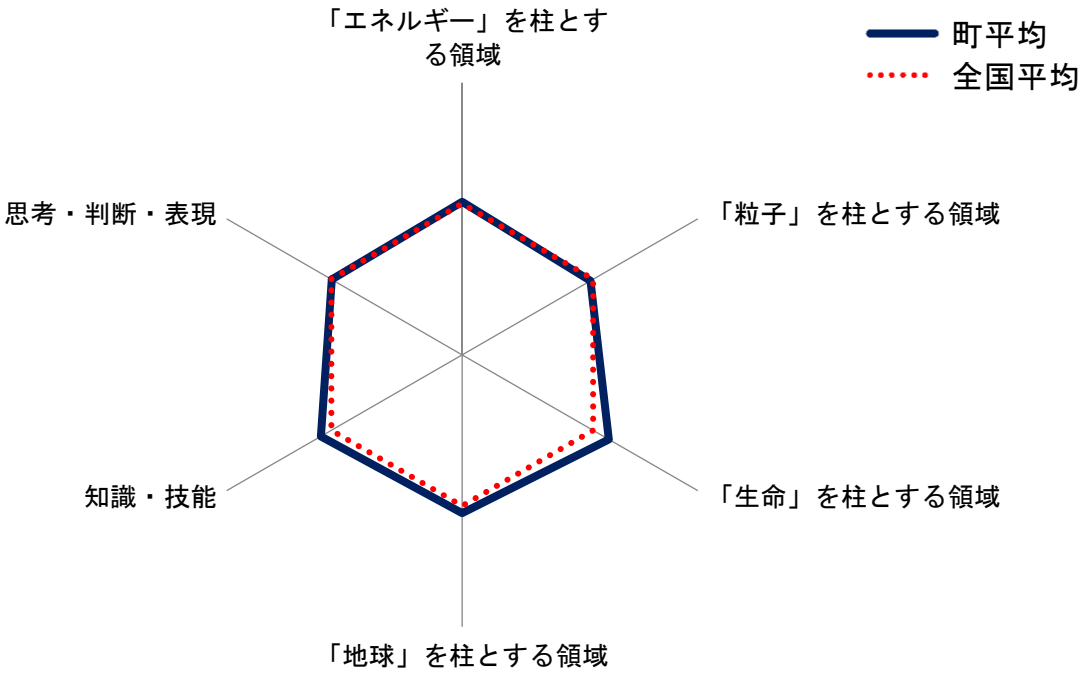


【算数】

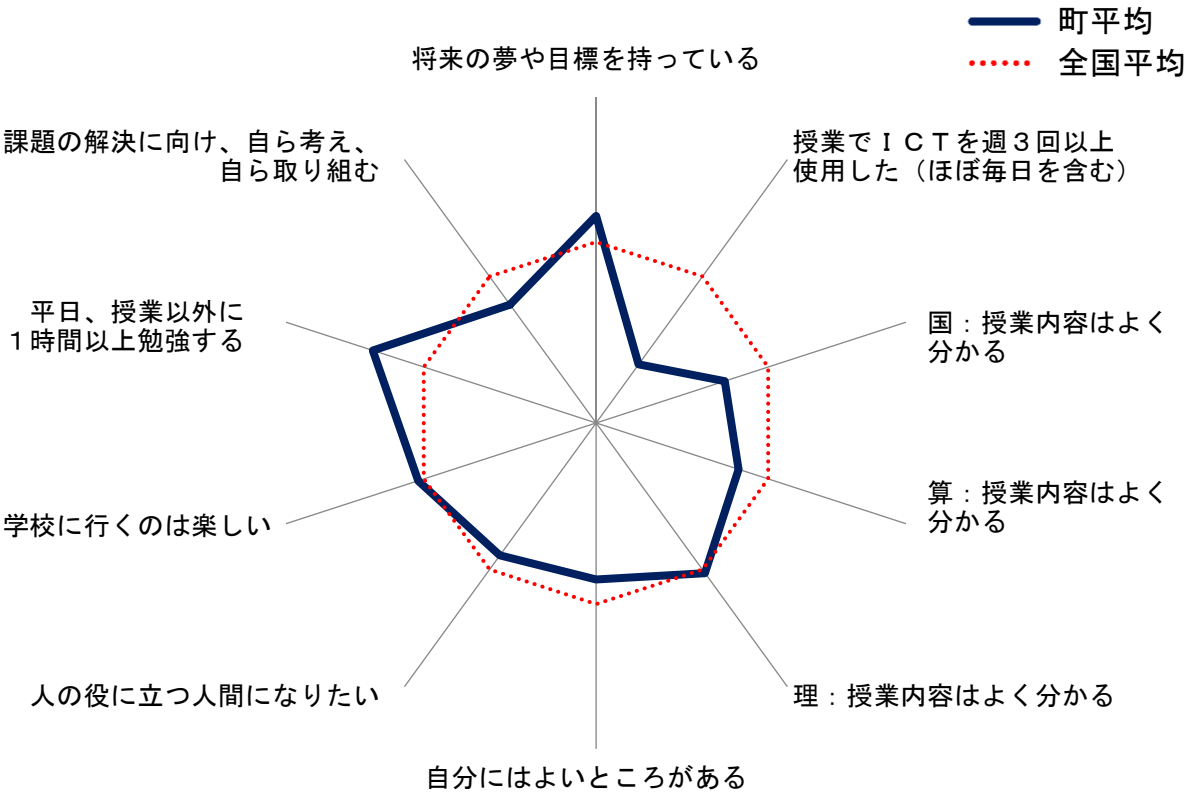


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【理科】



○ 児童質問調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語の「書くこと」の項目が全国平均を下回っているものの、国語、算数、理科のほとんどの項目が全国平均とほぼ同じか上回っている。特に、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を大きく上回っており、良好な結果である。今後は、より質の高い授業改善に取り組み、主体的に課題解決に取り組む児童を育成することが望まれる。

児童質問調査では、「平日、授業以外に1時間以上勉強する」の項目が昨年度に続き全国平均を大きく上回っており、キャリア教育の充実と主体的に学習に取り組む態度の育成を図る取組の成果がうかがえる。一方、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」の項目が今年度は全国平均を下回っているとともに、「授業でICTを週3回以上使用した」、国語や算数の「授業の内容はよく分かる」の項目は、全国平均との差が大きく、課題である。今後は、ICTの効果的な活用に向けて各学校の好事例を共有し、児童にとって「分かる」「できる」を実感できる授業改善に取り組むとともに、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を工夫し、自己肯定感を高める教育活動を推進していくことが望まれる。